

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
2 生徒支援の充実	①基本的な生活習慣の確立、および豊かな人間性と規範意識の醸成	<p>(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。</p> <p>(2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。</p> <p>(3) 社会のルールとマナーを守り、分別のある行動ができ、他人への配慮を忘れず、人間性・協調性に富んだ生徒を育成すると同時に、教員自身が率先垂範に努める。</p> <p>(4) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りを努める。</p> <p>(5) 規範意識の高揚を図るために、時間厳守、礼儀作法など、社会の常識や秩序を正しく理解させ、高校生として取るべき行動とは何かを考えさせる。</p>	<p>○年間を通して、生徒(部活動生及び生徒会等)、職員が一体となって正門でのあいさつ運動を実施した。この運動は、あいさつや風紀指導のみならず、生徒の表情観察や登校状況を把握できる絶好の機会と捉えており、生徒理解のための重要な活動の機会と考えている。</p> <p>○各学期の始業日、定期考査最終日に各学年別に容儀指導を実施している。服装の乱れはないが、頭髪で再指導を受ける生徒がみられる。</p> <p>○LGBTQに配慮した取り組みとして、一昨年度より女子のスラックスを導入している。今年度は、全体で7名の生徒が着用している状況である。</p> <p>○規範意識の高揚を図るための取り組みとして、「時間厳守」を徹底している。遅刻する生徒は極少数であり、授業も落ち着いて開始できており、職員自身が率先垂範に努めている。</p>	3.3	<p>・(3)で「人間性・協調性に富んだ生徒の育成をする」とあります。今の新社会人はコミュニケーション能力が低いと言われております。先生からの説明では、オープンスクール等では、生徒は積極的に中学生とコミュニケーションを取っていたと聞きましたが、全体的にはいまだ低いと思います。生徒のコミュニケーション能力を高める対応ができると良いと思います。</p> <p>・学習面以外のこと、地域とのつながり、ボランティア活動、卒業後に必要となってくるコミュニケーション力、人間力を教育していただきたい。</p> <p>・生徒たちには、講師からの話を取り入れて、生の声を聞かせて、自分たちでどうするべきかを考えさせてほしい。</p> <p>・「チャンス、チャレンジ、チェンジ」で、生徒自身が考え、判断し、行動することを奨励している点は素晴らしい。主体的に生きることにつながる。</p>
	②部活動の充実強化及び学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加の促進	<p>(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。</p> <p>(2) 勤労の尊さや相手の立場に立って考えることの大切さを理解できる生徒、シティプライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。</p> <p>(3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生への部活動加入を推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 情報端末(携帯電話など)の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校 携帯電話利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。</p>	<p>○生徒会執行部を中心に各種委員会と連携し、生徒総会やエクセルシア祭、クラスマッチや無限会等の行事を開催することができた。生徒が主体的に意見やアイデアを出し、例年以上に完成度の高い学校行事であった。</p> <p>○部活動については、奨励部を中心に九州大会出場を果たした。また、野球部が来春の選抜甲子園大会選考となる県の21世紀枠推薦校に選出された。運動部だけでなく文化部も九州大会や全国大会等、上位大会への出場を果たした。</p> <p>○ボランティア活動は、コロナ前の実施数に戻り、日南市や各種団体と連携した活動を実施することができた。飢肥駅清掃、読み聞かせ、子ども食堂等、多くの生徒が積極的に参加し、豊かな人間性の育成を図ることができた。</p> <p>○一昨年度からスマホ等の校内持ち込みを許可し、時間と場所を設定し使用も認めている。数件の不適切使用により指導した生徒もいたため、今後一層の情報モラルや使用方法についての指導徹底を図っていく。</p> <p>○昨今、ブラック校則等のニュースが話題となっている。新しく改訂された「生徒指導提要」を基本に生徒、職員、保護者との対話を重ね、より良い校則に改訂できるよう努力している。</p>	3.5	<p>・校則の見直しについて生徒会主体で進めていくのも主体性、自主性を育む教育につながるのではないかと。</p> <p>・制服やスマホなど、時代に合った変更が行われていて良かったです。校則の見直しはぜひ生徒主体で進めてほしいです。</p> <p>・ゴミの持ち帰り指導は社会生活を営む上で良い取組だと思う。</p> <p>・ボランティア活動への意識が高まっているので、活動の幅が広がることを期待する。</p> <p>・ボランティア活動への参加も積極的で、こども食堂に来てくれる生徒さんも大変意欲的に活動している。</p> <p>・教育相談アンケートなどで生徒の不安や悩みの解消に取り組んでいるが、それだけでは十分ではない。校内カフェなど気軽に集い、語り合い、つながる場も工夫していただきたい。</p>
	③生徒の心身の健康への意識向上及び教育相談活動の充実	<p>(1) 定期健康診断等の結果をもとに生徒の健康状況を把握し、家庭との連携を図り、生涯を通しての健康づくりに取り組む。</p> <p>(2) 健康観察・保健室での様子、教育相談室での相談、教育相談アンケート、職員からの情報などから生徒の心身の変調を早期に把握し、職員とのチームワークで生徒一人ひとりにきめ細やかなサポートができる体制づくりに取り組む。また、生徒の心の問題については教育相談室を中心としながら、状況に応じて外部関係機関と連携し、迅速な対応を行う。</p> <p>(3) 教育相談・特別支援に関する職員研修・講演会の実施や関係する保護者・職員・外部機関との連携を通して、支援が必要な生徒が学習しやすい環境を整える。</p>	<p>○今年度も定期健康診断も滞りなく実施することができ、家庭と連携しながら、生徒の健康状況の把握に努めた。また、保健室から発刊する「ほけんだより」にて生徒の心身の健康についての知識や意識の向上に努めた。</p> <p>○年3回教育相談アンケートを実施し、生徒の不安や悩みの解消に努めた。不登校傾向にある生徒についてはケース会議を開き、生徒状況について職員間で共通理解を図り、生徒にとってよりよい方向に向かうよう今後の対応等について協議した。生徒の状況によっては、県のスクールカウンセラーを要請し、カウンセリングをお願いした。(1名:2回)また、学期末ごとに「相談だより」等で、相談機関の案内をし、学校で悩みを相談しづらくともあらゆる相談窓口があることを周知してもらった機会とした。今後も職員、保護者、専門機関と連携・協力しながら、生徒一人ひとりが過ごしやすい環境になるよう努めていきたい。</p> <p>○今年度は宮崎県教育研修センター教育支援課 矢野 秀平先生を講師にお招きし、「特別支援教育の視点を生かした生徒理解や支援について」という題目で職員研修を実施した。昨年度は困り感を持った生徒たちの具体的事例を基にした研修だったが、今回は授業における合理的な配慮や保護者との関わり方など、周りの環境の在り方について理解を深めることができた。教室環境や発問の仕方など生徒たちがどのようにしたら理解しやすいか、生徒の視点に立った指導が重要であると再認識した。</p>	3.0	
	④環境美化活動と清掃奉仕活動の充実	<p>(1) 環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図る。</p> <p>(2) 美化委員会を中心とした環境美化活動を推進し、生徒の美化意識と奉仕の精神の喚起・啓発に努める。</p> <p>(3) 地域と連携した清掃奉仕活動を実施し、地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりに寄与する。</p>	<p>○快適な学習環境の整備について、今年度各クラスに温・湿度計を設置した。生徒たち自身で室内の温度・湿度をチェックしながら換気を行うなど関心を示し、快適な環境について意識するようになったのではないかと考える。</p> <p>○今年度も清掃強化期間及び校内安全点検を学期に1回実施した。清掃強化期間については美化委員会を中心に、全校生徒へ環境美化について喚起した。また、校内安全点検については清掃担当職員に依頼し、普段見逃しがちなところについても点検を行ってもらって、安全に過ごせる環境になるよう努めている。</p> <p>○1年生は日南市との連携事業である飢肥駅清掃奉仕活動、2年生は校内清掃奉仕活動を実施した。2学年とも今年度は2クラス合同で実施し、普段取り組めないところまで手が届くように役割分担をした。また、12月に実施されたJR日南線構内美化作業ボランティアも多くの生徒が参加し、汗を流しながら一生懸命取り組んでいた。</p> <p>○昨年度からは始めているゴミの各自持ち帰りについては概ね良好ではある一方で、一部おざなりになっているところもある。生徒たちへさらに美化意識の喚起を行っていきたくと考えている。</p>	3.0	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
			具体的意見		
3 進路支援の充実	①生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	<p>(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。</p> <p>(2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。</p> <p>(3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティアへの参加を通じて生徒の経験値を高めて、ポートフォリオ等の活動の記録やその保管方法を工夫する。</p> <p>(4) 総合型・学校推薦型・一般選抜への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。</p> <p>(5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けたタイムリーな方策を打ち出す。</p> <p>(6) 生徒だけでなく家庭に対しても、適切な進路情報を継続的に提供する。</p>	<p>○3年生については、4月当初に担任・教科担任団で成績や志望状況を互いに確認共有する会を実施して指導を開始した。年内入試(総合型・学校推薦型選抜等)の段階で、44名の生徒が内定を得ることができた。その内12名(昨年9名)が国公立大学であり、面談を通して生徒の希望や特性を見極めて出願指導をしたり、全職員挙げて面接や小論文指導に当たった成果と考える。</p> <p>1・2年生については、対外模試の成績を基礎資料として現状把握や今後の支援につなげるための学力検討会を9月と12月に行った。</p> <p>○これまで土曜講座の一環として行ってきた分野別教養講座(1・2年対象)を平日開催(7月)とした。また、コロナ禍の3年間は県内の大学・短大などに限って講師を依頼してきたが、新型コロナの5類移行を契機に熊本大学・崇城大学・熊本保健科学大学にも依頼した。進学を希望する生徒が多い本校生徒にとって、大学での講座を体験する機会は大変貴重だと考えている。依頼する大学等や学問分野について、生徒のニーズに合わせて調整していく必要がある。</p> <p>○1年生を対象に新たに職業観育成講座を実施した(11月)。地元の企業6社に講師を依頼し、働くことの意義や今学んでほしいことについて講話をしていただいた。10年・20年先のキャリアを意識して進学先などを検討させるための企画である。生徒にとっては大学の出前講座とは異なる刺激となったようである。次年度は1学期に職業観育成講座、10月に分野別教養講座を企画し、教育課程登録につなげていきたいと考えている。</p> <p>○2年生保護者を対象に本校の現状及び入試制度などに関する講話を行ったが、保護者に対する継続的な情報発信が進められていないのが課題である。</p>	3.3	<p>・進路支援については、積極的取組や新たな取組が行われ、前年を上回る進路の達成が実現できたことは大変評価できる。</p> <p>・普通科から国公立大学合格者が多く出ていることは評価できる。中学生および中学生の保護者、地域へのアピールをどんどんやってほしい。</p> <p>・指導方法の改善では、生徒の立場で検討され土曜講座を廃止されたが、良い結果が得られている。</p> <p>・土曜講座が廃止されて良かったです。今後も朝夕課外やテストなど本来の目的に立ち返って議論を続けてほしいです。</p> <p>・今までの指導方法がICT導入や新たな学習指導法を考慮すると、指導方法の改善は必要で、評価できる。</p> <p>・今年度の高校3年生は宿題が多く出され、時間と量に追われていた。早い段階(高校1・2年)で家庭学習の確保ができる学校内の連携の取れた学習支援をしてほしい。</p> <p>・職業観育成講座はすばらしい取組である。大学合格や就職がゴールではない。自分はどのような人生を望むのか、何をもちて幸せとするのか、高校生のうちから考え続けることが大切である。</p>
	②進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	<p>(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。</p> <p>(2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密に加えて地域人材や専門家の活用を模索しながらより体系的・組織的に計画、実践する。また、探究・未来戦略課企画委員会と連携し、「未来戦略課・Nichinan Project」の充実に努める。</p> <p>(3) 新しい学力観で求められる学力の向上の手立て、特に「大学入学共通テスト」で実力を発揮できる生徒の育成方法について研修の機会を設ける。</p> <p>(4) 新教育課程に応じた指導の在り方について、教員間の共通理解を深める。</p>	<p>○1年生を対象に職業観育成、1・2年生を対象に分野別教養講座を行い、3年生の7月には第一学習社の講師を招聘して志望理由書・小論文講演会を行うことで、より具体的に進路について考える機会とした。なお、昨年までは職員向けの添削指導研修会を行ってきたが、3年生に対する講演会を参観することで教員の研修の機会とすることとした。</p> <p>○未来戦略課は日南市役所のバックアップを頂きながら日南市の課題解決に向けた研究を、探究科学コースの生徒は自分の興味関心に則した内容で研究を進めてきた(Nichinan Project)。研究内容については未熟なものも多いが、「テーマ設定・研究・発表」という一連の流れの中で思考力や表現力の向上につながっていると考えている。企画委員会のメンバーを中心に関係各所と連携してきたが、全職員でサポートする体制作りが課題である。</p> <p>○新課程入試については、各受験業者の開催するセミナーや研修会の案内を周知し、参加を促してきた。</p>	3.4	<p>・現在行っている講座のように、直接生徒がふれていくことで、今後の自分の希望がはっきりしてくると思われるので、続けてほしい。普通科高校である中でも進学(大学)だけでなく、専門学校や就職についても、今まで通り、今以上に先生の方で生徒のサポートをお願いしたいです。</p> <p>・結婚、子育てにも視野を向けながら、生活の拠点はどこにするとよいのか、ライフプランを考える機会をさらに充実させ、少子化対策にもつなげていただきたい。</p>
	③学力向上を目的とした指導方法の改善	<p>(1) 朝課外と夕課外の実施方法を検証し、より効果的なものとする。</p> <p>(2) 放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導を実践する。</p> <p>(3) 土曜講座や長期休業中の課外について見直しを進め、学びの在り方や支援の仕方について検討を進める。</p> <p>(4) 課題テストや校内模試の位置づけを明確にし、事後の支援に役立てる。</p>	<p>○土曜講座については昨年度より議論を重ね、今年度から廃止とした。各種大会との重複が無くなるとともに、生徒に時間を返すことで校外イベントへの参加がしやすくなったと考えられる。</p> <p>○全学年に対して朝課外を、また3年生については高校総体後から夕課外を企画し、基礎の定着や応用力強化のための取り組みに活用してきたが、自走できる生徒の育成を念頭に運営の方法について検討中である。</p> <p>○課題テストは春・夏・冬、校内模試は3年生で夏に1回実施した。観点別評価が導入され、相対的な位置づけが分かりにくくなってきたことを踏まえ、クラス編成に活用するなど関係部署と連携していきたい。</p>	2.9	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
学校関係者評価					
具体的意見					
4 信頼される学校作り	①地域との良好な関係の形成	(1) 高校説明会・オープンスクール・奨学金業務・教育課程説明会を適切に実施することで、地域・保護者の理解と協力を得られる学校を目指す。 (2) 各種行事・式典・入試業務等を確実に実施することで、地域に根ざし、地域の信頼を得られる学校作りに貢献する。	○日南・串間の各中学校の高校説明会に参加し、本校の特徴・魅力の発信に努めた。高校説明会用のパワーポイントは、中3生の先輩(本校1年生)の映像・コメントを取り入れ、本校に親近感を感じてもらえるものを作成した。 ○オープンスクールは生徒主体の行事として企画・運営し、座談会(普通科・探究別)・体験授業では本校生と中3生が直接交流する機会を多く設けた。事後アンケートでは、ほとんどの中3生が本校に好印象をもったという結果が出ていた。また保護者向け座談会(卒業生の保護者が本校について語る)も実施し、本校の教育活動の特長を紹介した。 ○教育課程説明会を通して、本校の教育活動や新教育課程に関する説明をおこなった。また、年度初めに保護者・高3生を対象とした大学予約奨学生説明会を開き、奨学生制度の仕組み・手続き・留意点を丁寧に説明した。 ○各部・各学年と連携し、各種行事(定期考査及び成績処理、始業式・終業式等)を適切に実施した。入学式・教育課程説明会等の地域との関わりが強い行事については、全職員の協力のもとで確実に実施し、地域の信頼を得られる学校作りに貢献した。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールが生徒主体で行われたことは大変良いことで、日南高校の良さが伝わって有意義な行事であったと思われる。 ・オープンスクールの座談会は良い企画だと思う。今後も新しい企画で「行ってみたい」オープンスクールにしてほしい。 ・オープンスクールやホームページ、Facebookなど、情報発信が充実してきたことはすばらしい。 ・進学率、信頼等は地元で周知されていると思われませんが、今後発生する災害に対して取組や今以上の地域とのコミュニティを強く結びつけることをしていただきたい。 ・災害対策には課題が残るので、近隣の関連施設の一つとして、協力しながら対策を進めていきたい。 ・コロナ禍で行われなかったいろいろなPTA行事が実施され、学校等保護者、本校と他校との交流・情報交換が図れたと思う。今後もできる限り行っていただきたい。 ・学校便利「エクセルショー」楽しみにしています。 ・今の子供たちは大半が携帯のある生活ですので、「生きる力」頭で考えさせて行動することをしてほしい。
	②学校安全体制の確立	(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組み、安心・安全な学校を目指す。 (2) 昨年度の学校安全教育推進校として学んだことを生かし、地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練や研修を実施し、地震・火災等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。 (3) SPS(セーフティプロモーションスクール)の指定校として、教職員・生徒・保護者・地域とのネットワークを組み、組織的かつ継続可能な学校安全の取り組みが協働して実践できるよう環境整備に取り組む。	○危機管理については、今年度新たにAED・担架・製氷機の設置場所を教室配置図で分かるように写真付きで作成した。本校ホームページの教室配置図にも掲載してもらっている。また、熱中症等生徒の非常時対応のため冷却パックを、職員室、保健室には救急箱と一緒に保管し、加えて事務室にも新たに保管することにした。 ○SPS認証を受け、今年度学校安全研修や避難訓練について新たな取り組みを行った。(以下) ・学校安全研修では今年度初めて不審者対応についての研修を開いた。刺股の扱い方や設置場所、刺股がない場合での対応等職員間で周知できた。 ・避難訓練については、1回目は従来の避難訓練、2回目は、グラウンドには避難をせず教室内で余震が発生したときの訓練を行った。(実際の地震災害では恐怖で動けなくなった生徒や余震で悲鳴・嘔吐する児童生徒、過呼吸が伝播していった学級などが確認されたということ、一方で耐震化されている学校が崩壊した事例はないということ、そして余震を伴わない大地震は存在しないという理由から今回このテーマで実施。)余震を示す緊急地震速報の報知音のたび、生徒たちは机の下に入る、その間教師は教室内の人数把握、生徒の緊急時(けが、過呼吸等)の対応等を他の職員と連携して行わなければならないなど、臨機応変な対応が求められ、実際に即した内容だった。点呼をした後の連絡の仕方など見直しをすべき点もいくつか上がったので、今後につなげていきたい。そしてこれらの対応を踏まえながらさらに発展して地域や関係機関と連携した避難訓練を検討していきたいと考える。	3.2	
	③学校と保護者が一体となった組織的なPTA活動を推進する。また、親和会に関する企画・運営、同窓会との連携による、教職員および学校全体の側面支援をおこなう。	(1) 役員および各種委員会の委員長と連携を密にして、各種委員会活動をはじめPTA活動の充実を図る。 (2) 県南地区の高P連事務局校として、各事業を円滑におこなう。 (3) 本校教育活動の記録として、紀要「天杉」を年度末に発行する。 (4) 黒潮同窓会と連携して、同窓会活動の改善を図り、学校・生徒の側面的支援をする。 (5) 職員間の親睦と厚生のため、親和会事業を適切に遂行する。	○PTA活動については、委員会の改編をおこない、学習指導委員会と母親委員会をまとめて「研修委員会」を新設した。また、生徒指導委員会も学校の分掌名に合わせて「生徒支援委員会」と改め、広報委員会と併せて三委員会で行った。 ○PTA主催事業については、「PTA総会」・「PTA奉仕作業(除草)」・「無限会PTA協力」および、「広報・研修・生徒支援」の委員会活動を役員と担当の連携を密にして計画的に実施することができた。「合勝うどん」については、実施日直前の感染症拡大の影響で2/13(火)実施に延期した。協力態勢については保護者30名程度の協力を予定している。 ○本校PTA広報紙「若潮」は、紙面づくりのコンセプトを昨年に引き続き「チャレンジ」として、特集記事づくりに力を入れるとともに、生徒の活動も生き生きとした様子が伝わるよう、写真選定とレイアウトにこだわった紙面作りを行った。今後も生徒、保護者から楽しみにしてもらえるような紙面作りを展開していきたい。紀要「天杉」も年度末に発行すべく、現在内容を集約中である。 ○同窓会との連携については、新体制の構築のために理事会を開催し、100周年以降新しい歩みをスタートすることができた。今後も学校と事務局の連絡を密にしていきたい。	4	
	④日南高校の広報活動を推進し、地域における本校の信頼感と親近感を高めつつ生徒募集活動を支援する。	(1) 学校ホームページ・フェイスブックを適宜更新し、日南高校の教育活動を紹介する。 (2) 日南高校便利「EXCELSIOR」、ポスター・パンフレット作成、日南市広報紙「好きです日南」への寄稿等を通じて、生徒募集に寄与する広報活動を展開する。	○学校ホームページについては、トップページをリニューアルして、学校施設を探訪できるようになった。また、新着情報もなるべく早く更新するように努め、年間を通して40件近い情報を発信することができている。また、HP来訪者も月平均7,000人と閲覧数も堅調なため、重要な広告の手段として「日南高校の今」を発信し続けていきたい。 ○学校便利「エクセルショー」(日南・串間市内小中学校に配布)については、今期2回発行して学校の情報を発信してきた。現在第3号を編集集中である。今年度は発行回数が少なかったため、次年度は回数を増やして日南高校の良さや、生徒の活躍を広報していきたい。また、市報「好きですにちなん」への寄稿については計画通りに行い、広報に資することができた。	3.3	